

東北みらいプロジェクトレクチャーシリーズ

入場無料

参加者募集

定員
300人

宇宙開発の 最先端に迫る

日時

2019年2月16日(土)
13:30~16:10(受付開始13:00)

会場

東北大学川内キャンパス
文科系総合講義棟2階大講義室
(仙台市青葉区川内27-1)

最先端科学への理解を深めてもらう「東北みらいプロジェクトレクチャーシリーズ」。今回は「宇宙開発」をテーマに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)理事の國中均氏から日本の宇宙科学戦略を解説いただくとともに、月面着陸を目指す「株式会社ispace」のコミュニケーションマネージャー秋元衆平氏を招き、研究開発の最先端を紹介していただきます。また、本学流体科学研究所教授の永井大樹が火星探査を行う飛行機開発の現状を説明します。

講演

日本の宇宙科学戦略

～深宇宙探査船団・観測網の構築～

向こう10年の内に、水星から木星まで各天体に探査機を送り込み、日本の深宇宙探査船団を完成させます。これまでのように宇宙機単体でなく、複数が群として機能し、その場観測やサンプルリターンといった手法を駆使して、46億年の太陽系宇宙の進化過程と生命の起源を探索します。

また、「多波長を統合した宇宙天文」にてX線からマイクロ波までの観測結果を統合し、地上の天文台も巻き込んで、宇宙138億年の歴史の解明に挑みます。



宇宙航空研究開発機構 理事
宇宙科学研究所 所長

國中 均氏

1983年3月京都大学工学部航空工学科卒業。1988年3月東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。2005年4月宇宙科学研究所教授。2018年4月現職。工学博士。2010年度文部科学大臣特別賞受賞。著書に「イオンエンジンによる動力航行」コロナ社。

火星飛行機

～世界初、火星の上空を翔る飛行機の実現を目指して～

いま、火星探査が大きな注目を集めています。その中で、火星の空を自由に飛び回る飛行機があればワクワクしませんか？ 私たちは世界で初めて火星を飛び飛行機の研究・開発を東北大とJAXAが中心となり、さらに国内大学の英知を結集して取り組んでいます。

講演では、火星探査の最新情報、飛行機を使ってできる新しい探査やどうすれば火星で飛行機を飛ばせるかなどの技術的な課題を具体例を紹介しながら説明します。



東北大学
流体科学研究所 教授

永井 大樹

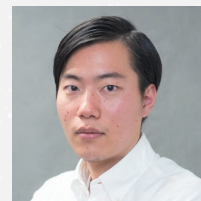
1972年生。2000年筑波大学大学院工学研究科博士課程修了。同年学振PD。2001年NASDA特別研究員。2004年東北大学大助手。2008年同准教授。2014年NASA/JPL客員研究員などを経て、現職。火星飛行機の開発や宇宙機の熱システム設計等に取り組んでいる。

宇宙を人類の生活圏に

～史上初の民間月面探査への挑戦～

ispaceは「Expand our planet. Expand our future. ～人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ～」をビジョンに掲げ、日本発の民間月面探査を目指す企業です。

月面探査レース「Google Lunar XPRIZE」にチームHAKUTOとして挑戦し、その開発を通じて獲得した技術やノウハウを活かしながら、民間開発の月着陸船と月面探査機による独自の月周回ミッション、月面着陸ミッションを計画しています。



株式会社ispace
コミュニケーションマネージャー

秋元 衆平氏

大学卒業後、ロンドン留学中に日経出版社に勤務。帰国後は総合PR会社、事業会社広報に勤務。2010年より、プロボノとしてチーム「HAKUTO」の広報・プロモーションを担当。2016年から現職。コミュニケーションとプロモーション戦略の立案、実行を担当している。

応募方法

宛先 河北新報社事業部「東北みらいプロジェクトレクチャー」係

郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、参加人数、また質問がある場合は明記し、Eメール、ファクス、はがきにより下記までお送り下さい。
※応募多数の場合は抽選となります。聴講券の発送をもって当選通知とさせていただきます。

Eメール j-oubo@po.kahoku.co.jp

ファクス 022-211-1221

はがき 〒980-8660(住所記載不要)

締め切り

2月6日(水)
必着

問い合わせ 河北新報社事業部 TEL.022-211-1332【平日10:00-18:00】



▼キャンパス内に駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

地下鉄 仙台市地下鉄東西線「八木山動物公園」行き乗車。「川内駅」または「国際センター駅」で下車。

主催：東北みらいプロジェクト(東北大学、河北新報社)